カナダ人の発明発見(Ⅶ)

●超大型映写機

たてが六階建てのビルと同じ高さ、横がおよそ二十五メートルという超ワイド・スクリーン。八十八個のスピーカーから六トラック・ステレオでひびきわたる音響……。

世界で技術的に最も進んだ映写機といわれるアイマックス（IMAX。Iは目、MAXは最大という意味）で映写すると、観客は文字通り画面に吸い込まれた気分になり、全く新しい映像と音の世界を楽しむことができる。

アイマックスを開発したのはオンタリオ州ストリートビルに住むウィリアム・チェスター・ショー。一九六〇年代のことである。大阪万博や東京晴海の宇宙博でアイマックスによる映画を見た人もいるはずである。

●コンピューター点字

一九六六年、ケベック州ハルのロラン・ギャラルノーさんは、コンピューターを使って印刷された文字を点字に変える方法の研究に取り組んだ。

捨てられた材料、古い電線などを利用して、自宅地下の作業室でコンピューターを組み立て、六年かけてシステムを作り上げた。その方法は、まず普通の文章をテレタイプに打ち、パンチ（せん孔）されたテープをコンピューターにかける。コンピューターはそれを翻訳し、省略した点字に直す。

ギャラルノーさん自身もほとんど目が見えない。

●陸上を走るヨット

ヨット、といえば海にきまっているが、写真の帆船（？）は陸上用。

オンタリオ州の帆走コーチが、まだ水上へ乗り出せないヨット乗りの練習用に作ったもので、三個の車輪がついていて、ヨットのように帆をあやつりながら走らせる。駐車場やテニス・コートなどの広場、氷の上など、平らなところだとどこでも大丈夫。わずかの風があれば走るが、駐車場で時速三〇キロ、氷上で五〇キロの記録がでている。自転車より安全だとのことで、誰にでも乗れそうだ。

操作はヨットと同じで、車輪のかわりにフロートをつければ水上で走らせることもできるという。

●標準時

かつて、時間は村や町によって異なっていた。太陽が頭の真上にくると正午というわけで、その土地の経度によって時間が少しづつずれていたのである。したがって、汽車などで東西に旅をすると、駅ごとに時計の針を動かさなければならなかった。

こうした不便を解決したのが、スコットランド生まれで、のちカナダに移住したサンフォード・フレミングである。

フレミング（一八二七―一九一五）は、一八七八年、カナダ科学知識振興協会から一連の論文を発表し、中心となる子午線を設定して、世界を二十四の時間帯に分け、それぞれの時間帯における時間を統一するよう提案した。フレミングはこの提案の採用を強く訴え、その結果、北米のすべての鉄道会社がこれを使うことになった。

そして一八八四年、ワシントンD・Cで開かれた国際本初子午線会議において、フレミングの案は正式に採用され、十九世紀末までに、ほとんどすべての国がこれをとり入れた。これが今日の標準時である。

フレミングは、ほかに、カナダ最初の郵便切手の図案を描き、バンクーバーからオーストラリア間の海底ケーブル敷設の図面を作り、カナダ最初の正確な大型測量地図を石版刷りにしたことでも知られる。

編集後記

○いやはや、全くうっかりしていました。本紙三月号でケベックの州民投票について予告しておきながら、その結果をお知らせするのを忘れていました。七月号で扱う予定だったのですが、同号が中止になったため、すでに掲載したものと何となく錯覚していたのです。新聞ですでにご承知だとは思いますが、念のため、遅ればせながら、簡単に報告させていただきます。

○州民投票が実施されたのは五月二十日。質問の内容は、ケベック州が他のカナダと経済的連合を維持しつつ独立することについて、その交渉を州政府に委任するかどうか、ということでした。これに対し、賛成五九・五％、反対四〇・五％と、賛成派が圧倒的な過半数を占め、レベック州首相の提案を否決しました。レベック州首相は敗北を認め、トルドー首相にケベックの現状を改めるべく憲法を改正するよう要請しました。

○これでカナダ分割の危機は一応回避されたわけです。連邦政府とケベック以外の各州は現状変更に対するケベック州民の希望に理解を表明していますが、一夜で解決がつく問題でないのも事実です。憲法問題と深くかかわっており、今後はケベック州内の動き、連邦政府の対応、各州の態度が注目されます。

○さて今号は観光特集。普通の観光案内では味わえないカナダの旅をご紹介したいと考えていましたが、ご満足いただけましたかどうか。（吉田）

本紙中の意見や見解は、必ずしもカナダ政府またはカナダ大使館の考え方を反映するものではありません。また公式文書の翻訳は仮訳です。転載の際は、できるだけ出典を明らかにして下さい。ご意見やご希望は左記の住所にご連絡下さい。

〒107 東京都港区赤坂七丁目三―二八
カナダ大使館広報部